センターNEWS

2026
Vol.2
公益財団法人和歌山県国際交流協会
（共同発行：和歌山県国際交流センター）
発行月　2026. 10月（R8.第2号）



和歌山県国際交流センターとは

和歌山県国際交流センターは、外国人住民の「安心して暮らしたい」と、県民の「世界とつながりたい」を応援する場所です。
日々の外国人相談から文化交流まで、人と人がやさしくつながる時間がここにあります。

施設のご紹介

国際交流センターは和歌山市内にあり、どなたでもご利用いただけるフリースペース・図書室・キッズコーナー、国際交流活動にご利用いただける貸会議室があります。









目次

P.2~3
企業とともに育む日本語学習の環境
～和歌山県日本語環境整備事業～
P.4　わかやまJICAボランティア応援団通信
P.5　JICA関西　和歌山デスクより
P.6　施設内の取り組み紹介
～図書コーナー日本語学習教材の貸し出し～
賛助会員のご案内

HP　LINE

ホームページ・SNSでイベント情報も発信中　フォローしてね

企業とともに育む日本語学習の環境
～和歌山県日本語環境整備事業～

和歌山県企業連携型日本語教室 日本語講師派遣制度活用の取り組みを紹介します



和歌山県国際交流協会では、県内企業で働く外国人材が安心して働き、地域で暮らしていくことができるよう、企業と連携した日本語学習支援に取り組んでいます。外国人材の受入れが進む中、職場や地域社会において円滑なコミュニケーションを図るためには、日本語能力の向上が重要な課題となっています。企業連携型日本語教室では、企業の協力のもと、外国人従業員が仕事や日常生活で必要な日本語を学ぶ機会を提供しています。学習内容は、日本語の基礎だけでなく、職場での会話や報告・連絡・相談、安全に関わる表現など、実際の業務に直結する内容も取り入れながら進められています。また、日本語を学ぶことは、仕事の理解を深めるだけでなく、職場でのコミュニケーションや地域住民との交流を促進し、外国人材の定着や活躍にもつながります。企業にとっても、従業員が安心して働ける環境づくりや、人材育成の充実という大きなメリットがあります。今回は、実際に企業連携型日本語教室に参加している企業、学習者、そして講師へのインタビューを通して、それぞれの立場から見た取組の成果や変化をご紹介します。日本語学習を支える現場では、どのような成長や気づきが生まれているのでしょうか。現場の声をお届けします。

紹介する企業はこちら



株式会社 鳥羽運送
創業 / 設立　1960年 / 2002年
外国人社員数　8名
事業内容　一般貨物自動車運送事業、倉庫業（3PL）、土木事業、観光バス事業
本社所在地　和歌山県和歌山市直川160-31



企業担当者インタビュー

「運送業界から広がる日本語学習支援の輪」

株式会社　鳥羽運送
物流部　次長　鳥羽　佑起さん

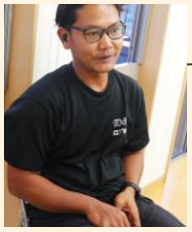
Q. 日本語教室の導入を決めたきっかけを教えてください。
これまで社内では、漢字帳などを使って独自に学習を進めてもらっていました。しかし、文字は覚えられても、言葉の発音や使い方、細かな意味まではなかなか身につきにくいという課題がありました。外国人社員が仕事や日常生活の中でより円滑にコミュニケーションを取れるよう、専門的に学べる機会が必要だと感じ、日本語教室の導入を決めました。

Q. 実際に教室を始めてみて、どのような変化を感じていますか。
当社には特定技能1号の在留資格を持つ外国人が在籍していますが、来日当初日常会話はできても、細かなニュアンスを理解したり、自分の考えを十分に伝えたりすることが難しい場面もありました。教室での学習を続ける中で、少しずつ会話の幅が広がり、現在では日本人ドライバーと休憩時間に談笑する姿も見られるようになっています。導入して本当に良かったと感じています。

Q. 受講者の皆さんの様子はいかがですか。
受講者は毎回とても意欲的に参加しています。運送業は勤務時間や休日が不規則ですが、休みの日であっても「勉強があるから」と自発的に参加する社員もいます。講師の先生との信頼関係もできており、楽しみながら学べる環境が学習意欲につながっていると感じています。

Q. 職場にはどのような変化がありましたか。
以前は分からない言葉があってもそのままにしていた社員が、今では「その言葉はどういう意味ですか」と積極的に質問してくれるようになりました。冗談を交えた会話の中でも言葉の意味を確認しようとする姿が見られ、日本語をもっと学びたいという意欲を感じます。そうしたやり取りを通して、日本人社員との距離も縮まり、職場全体のコミュニケーションが活発になっています。

Q. 今後の期待や、日本語教室の意義について教えてください。
運送業には専門用語が多くあります。今後はそうした言葉も自然に理解し、日本人ドライバーと同じように自信を持って仕事ができるようになってほしいと思っています。また、日本語教室は外国人社員の成長だけでなく、企業にとっても大きな価値があります。私たちの取組をきっかけに、このような学習支援の輪が同業の企業へさらに広がっていくことを期待しています。



学習者インタビュー

「もっと日本語を覚えて仕事に役立てたい」

株式会社　鳥羽運送
従業員　ロフマト ルビヤントロさん（インドネシア出身）

Q. 日本語を勉強しようと思った理由を教えてください。
私は日本に来て7か月になります。日本で仕事や生活をするためには、日本語が必要だと思い勉強を始めました。特に仕事で使う日本語を身につけたいという気持ちが強く、日本語教室に参加しています。

Q. 日本語教室に参加して感じたことはありますか。
教室はにぎやかな雰囲気です。分かったときは手を挙げて発表したり、自分から質問したりすることもあります。勉強は最初よりだんだん難しくなっていますが、先生がやさしく教えてくれるので頑張ることができます。日本語を勉強することは楽しいです。

Q. 日本語が上達して、生活や仕事に変化はありましたか。
会社の人とのコミュニケーションが以前より良くなりました。仲間や上司と話す機会も増え、自信も少しずつついてきています。まだ知らない言葉がたくさんあるので、これからもっと勉強して覚えていきたいと思っています。

Q. 仕事では日本語がどのように役立っていますか。
私は特定技能1号の在留資格で、トラックドライバーの仕事をしています。仕事では、会社からの連絡や配送先の指示を正しく理解することが大切です。日本語が分かることで、会社の人とのコミュニケーションがスムーズになり、仕事を安全に進めることにもつながっています。

Q. これからの目標を教えてください。
これからも日本語の勉強を続けて、仕事で使う言葉をもっとたくさん覚えたいです。そして会社の人たちと今以上にコミュニケーションを取れるようになりたいと思っています。

「仕事で必要な日本語をもっと学び、仲間や上司と自然に会話できるようになることが今の目標です。」



講師インタビュー

「ことばの力が、働く力につながる」

企業連携型日本語教室 講師　山本　康司さん





外国人材が安心して働き、地域で生活していくためには、日本語でのコミュニケーション力が欠かせません。
今回は、企業連携型日本語教室で指導にあたる講師に、授業の工夫や受講者の成長についてお話を伺いしました。

Q. 日本語教室ではどのようなことを大切にしていますか。

日本語は単に言葉を覚えるだけでなく、実際の仕事や生活の中で使えるようになることが大切だと考えています。そのため、授業では受講者が積極的に話したり、自分の考えを書いたりする機会を多く設けています。
また、それぞれの日本語レベルや仕事の内容に合わせて学習を進めることも心掛けています。運送業で働く方であれば、お客様とのやり取りや荷物の受け渡し、交通標識の理解など、実際の業務で必要となる日本語を取り入れながら学んでもらっています。
特に大切にしているのは、間違いを恐れずに挑戦できる環境づくりです。外国語を学ぶうえで失敗は成長につながる大切な経験ですので、「まずは話してみる」「まずは書いてみる」という姿勢を応援しています。受講者同士で教え合ったり励まし合ったりする姿も見られ、教室全体が学び合いの場になっています。

Q. これまでの授業で特に印象に残っている出来事はありますか。

授業の中では定期的に作文に取り組み、自分の経験や将来の夢について発表してもらっています。その中で特に印象に残っているのが、「将来、困っている子どもたちのための施設をつくりたい」という夢を語ってくれた受講者の発表です。
普段はあまり多くを話すタイプではなかったのですが、そのときは自分の思いを一生懸命日本語で伝えてくれました。日本語の上達だけでなく、自分の考えを表現する力や自信が育っていることを感じ、とても嬉しくなりました。
日本語学習は文法や語彙を覚えることだけではありません。自分の思いや考えを誰かに伝えられるようになることも大切です。そうした成長の瞬間に立ち会えることは、講師として大きな喜びの一つです。

Q. 今回の受講者にはどのような特徴がありますか。

今回参加されているのは、主に運送業で働く外国人ドライバーの皆さんです。トラックドライバーは一人で業務を行う時間が長く、道路標識の確認や配送先でのお客様とのやり取り、会社への報告など、さまざまな場面で日本語を使う必要があります。
そのため、「もっと日本語を理解できるようになりたい」「仕事で自信を持って対応できるようになりたい」という思いが強く、学習意欲の高さを感じています。授業中も積極的に質問したり、自分から発言したりする場面が多く見られます。
また、仕事と学習を両立しながら教室に通っている方ばかりです。忙しい中でも時間をつくり、真剣に学ぼうとする姿勢にはいつも感心させられています。そうした努力が少しずつ実を結び、日本語でのコミュニケーションに自信を持つ姿を見ることができています。

Q. 企業が日本語教育に取り組む意義について、どのように感じていますか。

外国人材が安心して働き続けるためには、職場でのコミュニケーション環境を整えることが重要です。
日本語教育は業務の理解や安全確保につながるだけでなく、職場での人間関係づくりや地域生活への適応にも大きく役立ちます。
また、企業が従業員の学びを支援する姿勢を示すことは、「大切にされている」という安心感にもつながります。受講者からも、「会社が勉強の機会をつくってくれてうれしい」といった声を聞くことがあります。これからは企業が人材を選ぶだけでなく、人材からも選ばれる時代です。
外国人材が長く安心して働ける環境を整えることは、企業にとっても大きな価値になります。日本語教育への取組は、人材育成だけでなく企業の魅力向上にもつながる重要な投資だと感じています。

編集後記

企業と地域が連携して実施する日本語教室では、言葉の学習だけでなく、働く自信や将来への希望も育まれています。
受講者一人 ひとりの夢や目標に寄り添いながら進められる学びの場は、多文化共生社会の実現に向けた大切な取組です。
今後もこうした交流と学習の輪がさらに広がることを期待しています。





授業の風景

公式ホームページ
【日本語教室情報サイト　わかやまにほんごのまど】 より、企業連携型日本語教室の情報をご覧ください。

わかやまJICAボランティア応援団　応援団通信



総会・参与会を開催しました。





６月２６日（金）ダイワロイネットホテル和歌山において、わかやまJICAボランティア応援団の総会・参与会が開催されました。応援団の会員や参与の皆様をはじめ、来賓としてJICA関西の皆様にもご臨席いただきました。

参与会ではJICA海外協力隊帰国隊員2名から、それぞれの活動について報告がありました。現地での活動や暮らしの様子を通して、隊員がそれぞれの派遣先で取り組んでいる活動や、現地の人々との関わりについて知る貴重な機会となりました。また、現在、活動中の隊員から届いたビデオレターや現地の生活・活動を紹介する資料も共有し、海外で活躍する隊員への理解を深めました。

わかやまJICAボランティア応援団では、今後もJICA海外協力隊員への支援を通じて、国際理解や国際協力の推進に取り組んでまいります。

映画「幸せの経済学」上映会を開催しました。



10月10日（土）、和歌山県国際交流センター主催、わかやまJICAボランティア応援団共催で、映画『幸せの経済学』の上映会を開催しました。上映後には、JICA海外協力隊としてスーダンで活動された神崎早紀子さんをゲストティーチャーにお迎えし、現地での活動や暮らし、人々との関わりについてお話しいただきました。

その後の振り返り交流会では、参加者がグループに分かれ、映画や神崎さんのお話を通して感じたことを共有しました。「幸せ」や「豊かさ」とは何か、地域に根ざした暮らしの大切さなどについて、活発な意見交換が行われました。映画と神崎さんのお話をきっかけに、私たち自身の暮らしや社会のあり方を見つめ直し、国際理解について考える機会となりました。

WJVO

和歌山から国際協力の現場へ挑戦するJICAボランティアを応援する団体です。派遣前から帰国後までを支え、地域と世界をつなぐ人材の活躍を後押ししています。

わかやまJICAボランティア応援団ホームページはこちらから

https://www.wakajicavo.com/

JICA関西　和歌山デスク より

2026年度 上半期もJICA和歌山デスクのイベントやブースにご来場いただきありがとうございました

2026年度　上半期



JICA海外協力隊 展
セントラルシティ


JICA海外協力隊 展
イオンモール和歌山


どローカルごはん展
打田生涯学習センター



JICA海外協力隊 秋募集説明会
美園商店街


オセアニア展
和歌山県国際交流センター



大塔地球元気村
大塔体育館


国際ヨガデー
ビッグウェーブ


国際協力 出前講座
田辺中学校

今後の予定

世界と日本を変える力
JICA海外協力隊 展

世界各地で地域の人びとと同じ目線で課題解決に挑む「JICA海外協力隊」。

和歌山県から出発したJICA海外協力隊員の活動の様子や赴任国の様子、食事などを紹介します。

期間：10月30日（金）～11月22日（日）

場所：田辺市文化交流センター

※田辺市文化交流センターの開館時間に準じます

JICA海外協力隊

— 和歌山県から出発した隊員 —



2026年9月末時点 派遣中 15名

お問い合わせ

JICA和歌山デスク

電話：073-435-5240

mail：jicadpd-desk-wakayamaken@jica.go.jp

住所：和歌山県国際交流センター内 JICA和歌山デスク

＼ お問合せ ／　＼ Facebook ／

Pick up!

施設内の取組紹介

図書コーナー
だれでも利用できる「日本語学習教材コーナー」

和歌山県国際交流センターでは、外国人住民の日本語学習を支援するため、「日本語学習教材コーナー」を設置しています。日本語を勉強し始めたばかりの方から、仕事や地域での生活に必要な日本語を学びたい方まで、それぞれのレベルや目的に応じて利用できる教材をそろえています。

教材は、ひらがなやカタカナの学習本、会話教材、漢字の学習教材、仕事で使う日本語教材、日本語日本語能力試験（JLPT）対策本のほか、子ども向けの絵本や多読教材など幅広い内容となっています。日本語教師や学習支援ボランティアの方々にも活用いただいており、地域での日本語学習活動を支える拠点の一つとなっています。
また、日本語を学ぶことは、単に言葉を覚えるだけではありません。職場でのコミュニケーション、地域活動への参加、災害時の情報収集など、安心して暮らすための大切な力につながります。教材コーナーは、外国人住民が自分のペースで学び、地域とのつながりを広げるための身近な学習の場となっています。
近年、県内でも外国人住民の増加に伴い、日本語学習への関心が高まっています。センターでは教材の充実を図るとともに、日本語学習支援事業とも連携しながら、多文化共生社会の実現に向けた環境づくりを進めています。
日本語を学びたい方はもちろん、日本語学習を支援したい方もぜひご利用ください。また、身近に日本語を学びたい外国人の方がおられましたら、センターの教材コーナーをご紹介ください。

和歌山県国際交流センター 日本語学習教材コーナー

開館時間中は自由に閲覧できます。教材の貸し出しも行っています。その他、日本語学習に関する情報もお気軽にお問い合わせください。







WIXASの活動を応援してください！

◉公益財団法人和歌山県国際交流協会（WIXAS）は 賛助会員 を募集しています。

和歌山県内の各分野での国際交流活動、国際相互理解及び国際協力を促進するとともに、在住外国人への支援を推進しています。ことば、民族、国境を越えて誰にでも開かれた地域社会づくりを図り、ひいては国際社会の平和と発展に寄与することを目的に活動しています。ぜひ当協会の活動にご賛同ください。

≪賛助会員≫会費 個人3,000円／年、団体10,000円／年、法人30,000円／年

★特 典★ ○当協会主催等のセミナーや研修会に優先的にご参加いただけます。
○センターニュースへの広告記載無料（内容については「和歌山県国際交流協会広告掲載要項」に基づき要相談）
○セミナーや研修会情報誌のDM

公益財団法人和歌山県国際交流協会（共同発行：和歌山県国際交流センター）
☎：073-435-5240 FAX：073-435-5243
URL：（公財）和歌山県国際交流協会 https://wixas.wak-kokusai.jp
和歌山県国際交流センター https:// wak-kokusai.jp
〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 和歌山ビッグ愛8F 開館時間：水曜日・祝日・12月29日～1月3日を除く毎日10:00～18:30

